

煉瓦でつくる建設中の診療所



みんなで診療所を建てよう！

現在スーザンでは、ひと月の半分をかけて32の村々を巡回して診療を行っており、そのうちの3か所の地域で現在「診療所の改築」を計画しています。地域住民の方々の自助努力により、その地域へ巡回する必要が無くなり、周辺地域の住民にも医療が行き渡るようになります。また巡回の負担が減った分、他の地域へより充実した巡回診療を行うことが期待できます。

スーザンの建物は、スーザンの土からできた煉瓦でできています。日本の皆様からの支援によって、この煉瓦のひとつひとつを積み重ねるようになりたいと願っています。

いつも、ロシナンテスを応援してくださり、誠にありがとうございます。

診療所の改築

現在スーザンでは、ひと月の半分をかけて32の村々を巡回して診療を行っており、そのうちの3か所の地域で現在「診療所の改築」を計画しています。

地域住民の方々の自助努力により、その地域へ巡回する必要が無くなり、周辺地域の住民にも医療が行き渡るようになります。また巡回の負担が減った分、他の地域へより充実した巡回診療を行うことが期待できます。

スーザンの建物は、スーザンの土からできた煉瓦でできています。日本の皆様からの支援によって、この煉瓦のひとつひとつを積み重ねるようになります。

首都ハルツームから車で8時間の距離にある北コルドファン州において、栄養改善事業を始めたしました。これは、5歳以下の栄養不良と診断された子供達、それに妊娠婦に対して栄養改善のための食料を配布する事業です。国連のWFP、スーザンのNGOであるSIDO（サイドー）との共同事業です。SIDOは北コルドファン州に活動拠点があり、日本政府からの援助で学校建設や水事業などを行っている団体です。今回の事業は、北コルドファン州の中でも、遠隔地で交通アクセスの不便な地域での活動となります。この事業の主役は、地域住民です。地域



北コルドファン州での栄養改善事業

首都ハルツームから車で8時間の距離にある北コルドファン州において、栄養改善事業を開始しました。これは、5歳以下の栄養不良と診断された子供達、それに妊娠婦に対して栄養改善のための食料を配布する事業です。国連のWFP、スーザンのNGOであるSIDO（サイドー）との共同事業です。SIDOは北コルドファン州に活動拠点があり、日本政府からの援助で学校建設や水事業などを行っている団体です。今回の事業は、北コルドファン州の中でも、遠隔地で交通アクセスの不便な地域での活動となります。この事業の主役は、地域住民です。地域

間の距離にある北コルドファン州において、栄養改善事業を開始しました。これは、5歳以下の栄養不良と診断された子供達、それに妊娠婦に対して栄養改善のための食料を配布する事業です。国連のWFP、スーザンのNGOであるSIDO（サイドー）との共同事業です。SIDOは北コルドファン州に活動拠点があり、日本政府からの援助で学校建設や水事業などを行っている団体です。今回の事業は、北コルドファン州の中でも、遠隔地で交通アクセスの不便な地域での活動となります。この事業の主役は、地域住民です。地域

地域住民へ事業を引き渡した後

2013年6月までロシナンテスが活動していたシェリフ・サバッラ村に、2015年1月と3月の二度訪問しました。自立運営が出来ているか心配なこともありましたが、診療所、給水所、女子小学校の運営は、州行政機関と地域住民とが連携して、問題なく運営され、ロシナンテスが育成した村落助産師たちも、元気に活動していました。救急車も動いていました。遠くの

この村をいろんな人に見てもらいたいです。それぞれに新しい構想が湧き、素晴らしい世界が築かれることがあります。

震災から4年

あの時から、すでに4年が経過しました。避難所から仮設住宅、そして復興住宅へと移行していますが、いまだに、22万9千人が避難生活を余儀なくされています。私は、今回の震災の復興における現場において、悲惨な状況を目の前にしながらも、「人情」というものが多く見させて



健康農業の参加者のみなさんと「たくあん」づくり

遠回り

《第13号》

認定NPO法人ロシナンテス
日本事務局発行〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org特定非営利活動法人ロシナンテス
ROGINANTES

栄養改善プログラムの様子

村から、給水車で水を購入に来ていました。そして、顔見知りの子供達が大きく成長している姿に、私も大きな喜びを感じました。この村のリーダーであるハサンは、自宅に食物倉庫を作つており、「今年は豊作だったよ」と顔をほころばせていました。

また、新しい家がいくつも建ち、パン工場ができ、また村に電気通り、夜遅くまで光に包まれた学校に子供たちの大きな声が響いており、村全体の活気を感じました。我々が手を差し伸べ、それに呼応して地域住民が立ち上がり、自立していっています。この村に来て、宝箱をひっくり返したりまらず、栄養改善と自立つながるスーザン地産の農作物の開発を手掛けていきたいと思っています。

将来的には、食糧配布のみにとどまらず、栄養改善と自立つながるスーザン地産の農作物の開発を手掛けていきたいと思っています。これは、東北だけの問題ではなく、日本の地方の高齢化社会の問題でもあります。皆様方の目の前にある現状なのかもしれません。「人情」を大事にしながら、現代の世情に合うような形の地域社会を探つていきたいと思っています。

（川原尚行）

もういました。日本の原点は残っているのです。「仮設住宅を出した後は、外に出る機会が少なり、それだけにロシナンテスの健康農業が楽しみです」といつた高齢者の方の意見が出されています。人と人が触れ合いで、「情け」をかけられる「場」が、東北事業における「健康農業」それに「寺子屋」です。「箱モノを作つて終わり、復興住宅ができる終わり」ではなく、ここからの問題に対しても挑戦していくままです。これは、東北だけの問題ではなく、日本の地方の高齢化社会の問題でもあります。皆様方の目の前にある現状なのかもしれません。「人情」を大事にしながら、現代の世情に合うような形の地域社会を探つていきたいと思います。



巡回診療事業
2014年11月に首都のハルツームから約100km(車で約2時間)のアラハンド村で健康教育を行いました。アラハンド村はロシナンテスが診療所の再建を考えている村の1つです。開始時間に多少の遅れ

はあつたものの、村の人達は事前に話し合った通りに、会場にテントやイスを設置し、準備万端の状態で待つてくれていました。

今回は女性を対象に、妊娠中に注

意する事や必要な栄養、妊婦健診の

重要性、また産後健診や家族計画に

ついての説明を行

いました。多くの女性と共に、会場には

男性や子ども達も訪れ、たくさんの人

巻き込んだ健康教育



ヨーロッパ
エジプト
サウジ
南アフリカ
スudan

が参加した健康教育となりました。

また、講義のほかにも、ポスターの展示やビデオ視聴で学べる部屋を設けたり、妊婦さんに限らず参加してくれた女性を健診する部屋を設け、必要時には検査や薬の処方を行い、終了する間際まで多くの人達が列を作っていました。地方の村では、このような大きな規模のイベントが開催される事が滅多にないため、終了後は村の男性を中心にダンスが始まるなど、お祭りのような雰囲気で締めくくることが出来ました。また、これまでの健康教育は大人が対象でしたが、今後は村の将来を担う子供達にも焦点をあて、大人から子供まで、村人全員を巻き込んでイベントを開催したいと考えています。(コミュニティ・モビライゼーションと言います。)

そのために、今後、村で健康教育を行う時は、村の学校や先生達とも協力し、小学校でスポーツ大会を開催し、集まつた子ども達にも健康教育を行っていく予定です。

(母子保健・助産師／田中香子)

隠れたニュースを探して ～村の子ども達～

母子保健・助産師／田中香子



巡回診療中、障害を持つ子供たちに出会う事があります。麻痺などの障害につながる原因の症状が起きた時に、医療施設に行く事が困難だったり、緊急を要する状態に家族が気付く事が遅く、病気が進行してしまう事もあります。また、麻痺や硬縮を進行させないためのリハビリなどを知らない親が多く、ベッド上で寝たきりの子ども達が多いのが現状です。このため、リハビリが必要な子どもの情報を収集し、どの村にサポートを必要とする子供たち

が何人いるのか、また詳しい状態を巡回診療スタッフや村人の協力を得て収集しています。現在は少しずつですが、毎月継続的に家庭訪問をし、生活の中で出来る工夫を家族にアドバイスし、子供たちのサポートを開始しています。将来的には各村で1人ヘルスボランティアを選出し、村人の健康管理を担当してもらい、子ども達のリハビリや家族への指導や、病院へ搬送が必要な場合などのコーディネータを含めた役割を担つてもらう計画をしています。



ロシナンテスは定期的に巡回診療スタッフに対してトレーニングを行っており、専門的な知識・技術の再確認など2つの地域を含めたスタッフに対してもトレーニングを行つたところ、ワドアブサレ地域のスタッフの理解度が他の地域のスタッフより優れている事が分かり、私達のスタッフがとても頼もしく見えました。この事は、定期的にトレーニングを実施しているだけでなく、フォローアップを通して継続して指導している成果だと

思っています。また、巡回診療の管轄外ですが、地域の保健センターで働く助産師さん達の中には無給でボランティアとして働く人が沢山いることがわかつてきました(お金がなくお給料が払えないからです)。彼女達の仕事への熱意はとても高いのですが、トレーニングを受けるチャンスがありません。このため、今後は彼女達も含めて勉強する機会を提供し、更に充実した医療サービスが患者さんに提供できるようにしていきたいと考えています。

(医療事業担当／インティサイール)

巡回診療の力強い味方

この度、巡回診療に使用する車と荷物を運ぶ牽引車を購入する事が出来ました。牽引車は大阪のうつぼロータークリニック様からのご寄附によるもの、また新しいランドクルーザーは支援者のみなさまや、歌手のさだまさし様からのご寄附と、川原が北九州マラソンを走る際に募ったジャストギビング募金によ

るもので。今まで巡回診療に使用していた車は古く、毎月のメンテナンスが必要となり困っていたため、本当に嬉しい事です。これもひとえに、ロシナンテスの活動をご理解していただいている皆様のおかげだと思います。また、ロシナンテスを通じてスタッフ一同嬉しく思っています。また、ロシナンテスを通してスーダンの人々を温かくサポートして下さる皆様に心より感謝とお

礼を申し上げます。これからも活動に力を注いでいきたいと思っていますのでどうぞ今後ともよろしくお願いします。

(医療事業担当／フセインスレイマン)





スーダンでは「香水」に関する面白い習慣があります。お母さんと赤ちゃんは出産後1週間家の中の1つの部屋で過ごし、出産後40日間は外出しないという習慣があります。その40日の間に村中の人人がお祝いに訪問しますが、来てくれたお客様に香水をふるまう習慣があります。ベッドの近くには必ず香水が置いてあり、お祝いに来てくれた人に香水をつけてもらいます。日本でもアロマオイルをつかったマッサージや芳香浴が流行っていますが、スーダンではお客様を香りで「もてなし」習慣があります。また、巡回診療チームはたくさんの家庭を訪問しますが、このような「おもてなし」を受けると巡回診療が村人に受け入れられていると

香水に手を伸ばす
助産師さん

感じると同時に、病院や施設では味わえない家庭訪問ならではの暖かい雰囲を感じる事ができ、とても嬉しい気持ちになります。

「スーダンで奮闘するロシナンテたちの活動ブログ」には他にも色々な情報がいっぱい！ぜひロシナンテスのホームページからチェックしてください。

ロシナンテス 検索 http://blog.livedoor.jp/rocinantes_staff/

スーダンで奮闘する
「ロシナンテ」たちの
活動ブログ

← ブログ
ボタン

初めての押し花を手に笑顔で記念撮影！



サッカー大会の後、歯科検診に参加中の子ども達



2014年12月7日から2週間、第2回目のサッカー大会を開催しながら、約1000名の子供達の歯科健診を行いました。サッカー大会は、会場近くの子供達のクラブチームが、その地域のコチのもとに集まります。そして、会場の地域の方が、サッカー大会と歯科健診のお世話をしてくれます。まずは、一番興味のあるサッカーで盛り上がります。その後は、グラウンドの隣にある垣根

の向こうの、静かなエリアで、子供たちの身長と体重を計り、その後ハルツーム大学学生の歯学部生と日本人歯科医師（藤瀬先生・原田先生）が歯科健診を行います。この歯科健診、歯の状態を見るためにニコッとしなくてはいけません。自然と歯科健診の周囲が笑顔に包れます。スポーツを通じて、地域の人々を巻込んだ健康教育となりました。（スポーツ事業部／田中三千太郎）

△サッカー大会×歯科検診

スポーツ事業・歯科検診

日本の医療をスー丹へ II 「スー丹に病院を！」

今回はその代替案の発表！：となるところですが、その前にこのプロジェクトで実施した他の活動を紹介します。



スタッフ紹介

モバイルクリニック
プロジェクトマネージャー
ターハ先生のQ&A

Q①ロシナンテスに就職する前の経験を教えてください。

A.2000年にジャジーラ大学の医学部を卒業し、連邦保健省で研修、救急部門での勤務、ハルツーム州保健省のヘルスケアチームのリーダーなどを経て、2010年から2015年までハルツーム州のプライマリーヘルスケア部門の責任者として働きました。

Q②ロシナンテスの仕事にどのように関わっていますか？

A.自分の生まれ育ったスー丹の為になる事がしたいという強い気持ちがあります。ロシナンテスのすべてのプロジェクトをまとめていますが、巡回診療事業に一番の力を注いでいます。

Q③人生のモットーは何ですか？

A.「愛と平和」です。愛と平和があれば人生において全ての人が幸せになると思うからです。

Q④日本のみなさんへスー丹の魅力を教えてください。

A.同じ国内でも多くの異なる風景や文化がありとても面白いです。また、違う国から来た人に対して、自分の家族のようにとても親切に接し、「おもてなし」の心を持って迎えます。自分の国をとても誇りに思っています。

スー丹の新聞に取り上げられたワークショップの記事



2014年11月12・13日には、ニプロ・ミドル・イースト社と飯塚病院の協力を得、40人以上の臨床工学技士と透析関連企業のエンジニアが参加した「血液透析に関するワークショップ」をイブン・シーナ病院で開催しました。これはスー丹の新聞紙上でも取り上げられるほどの大きな反響がありました。

スー丹の医療従事者は近隣諸国と比較してとても優秀で、その能力やスキルは高いのですが、

前号では、ロシナンテスが株式会社セントラルユニーク、株式会社ニプロ、飯塚病院と協働し、スー丹に日本式血液透析センターを設立すべく、経産省の「平成26年度医療機器・サービス国際化推進事業」に採択され調査を行ったところ、スー丹では血液透析が無料で実施されるため血液透析センター設立は難しいとの判断をしたところまでお伝えしました。

2014年11月12・13日には、ニプロ・ミドル・イースト社と飯塚病院の協力を得、40人以上の臨床工学技士と透析関連企業のエンジニアが参加した「血液透析に関するワークショップ」をイブン・シーナ病院で開催しました。これはスー丹の新聞紙上でも取り上げられるほどの大きな反響がありました。



工事が進む災害公営住宅



野西
(東北事業部／田地)

本当の復興はこれから

今年2月末における宮城県内の応急プレハブ仮設住宅の入居率は72・4%で、5年目を迎える今も、3万4648人の方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。

昨秋より私たちロシナンテス東北事業部が復興支援活動を続けていた名取市と亘理町の仮設住宅の入居率に大きな差が出てきました。名取市は未だ72・7%の方が仮設住宅での生活を強いられ、亘理町は半数を切り45・9%まで減少しました。

災害公営住宅に入居できる時期にも大きな差が生じ、亘理町は平成26年秋に入居開始しましたが、名取市は平成28年春の予定です。

仮設住宅から転出される方が増えてきた今、「仮設住宅を出られた方の復興なのか」という葛藤が生まれてきました。

被災された方々は①災害公営住宅に入居した人②新天地に自宅を再建した人③震災前の自宅を改修した人④仮設住宅に残っている人の4パターンに大きく分かれます。私たちが行っている高齢者や「寺子屋亘理」に通う子ども達も、このいずれかです。

参加者の声

仮設住宅を出た今は家族以外の方と会う機会が減ったので毎週の参加日が楽しみです。元気でいる子供たちにも迷惑をかけてしまって農作業はとても良い運動だと思います。津波で何もかも無くなってしまったが、そうではありませんでした。本当に復興のスタートはこれからなのです。

（東北事業部／田地）



健康農業に参加している

健康農業

仮設住宅からの転出が本格的に進む中「健康農業 亘理いちご畑」では移転された参加者を対象に聞き取り調査を始めました。

移転には幾つかのパターンこそありますが仮設住宅から転出することで「仮設住まいが終わって良かった。はじめがつい」とほんどの方が回答されました。しかし生活面では、すべての方が移転後「一人でいる時間が増えた」と答え、中には「移転前は一人で自立して生活していましたが、移転後は3世代で暮らすことになり自分の役目が無くなり、部屋にいる事が多くなりた」と答えた方もいました。移転先のところには知人は多いが、訪問す

るのはとても気を使ってしまふ」とすべての方が回答しています。また、移転先から仮設住宅の定期的な行事に参加を続けています。また、移転先から仮設住宅に聞きました。

仮設住宅からの転出は復興の第一歩ですが高齢者にとっては、これまで築いて来た仮設住宅での垣根の低い開かれたコミニティからの別れでもあります。今後は孤立化、運動不足など健康状態が悪化する危険性があります。今後も聞き取り調査を継続し参加者の心身のケアに役立てていきたいと考えています。

日々の畑仕事

大根干したり、たくあん漬けたり



ばあちゃん。前回もお願いしていて、その味は保証済みです。みんなで干した大根を軽く叩き柔らかくした後、樽の中に大根を並べて、その上に千枝子さん特製のたくあんの素を混ぜています。柿の皮や唐辛子なども混ぜながら、大根を重ねて行き重石を載せて

漬け込み作業は完了です。ひと月後、樽の蓋を開けるときれいな黄色のたくあんが出来ています。みんなで早速味見を始めます。味も歴然たえも最高です！

みんなで休耕地を開墾し種を蒔いた大根は、11月に収穫を迎えました。採れたたくあん用の大根をおばあちゃんたちは、手際よく紐で縛り軒下に干しています。その数なんと300本！冷たく乾いた空気と太陽を浴び旨みを増した大根は、ひと月で漬け頃になりました。

そして漬け込みの日。今回も指導していただくのは経験豊富な千枝子おじいさんです。おばあちゃん達に知らせると「本当にアフリカに届いたんだねえ」と驚いていました。（健康農業 亘理いちご畑／平林由紀夫）

去年の10月から災害公営住宅に移転して一人で暮らしています。ときどき「寂しいな…」と感じることがあります。健康農業に参加すると仮設住宅で一緒に生活する友達に会えるためとても楽しんでいます。自宅まで迎えに来てもうつて申し訳ないと思いますが、活動に参加する元気な気持ちになれます。これからも大変と思いますが活動をずっと続けてほしいです。

（Kさん 80歳・女性）

参加者の皆さんは農作業後の時

（Kさん 80歳・女性）

この活動には自分が健康な限り参加します。（M子さん 83歳・女性）



追悼の竹灯籠

3.11追悼

3回目となる「鎮魂と希望の祈りを灯そう」を今年も3月11日に実施しました。

昨年まで会場として利用してきた仮設住宅内の巨大なテントが撤去されてしまい、実施には迷いがありました。実施でしたが、参加者の皆さん「今年もぜひ続けたい！」という声に後押しされ、東北事業部を会場に準備を進めてきました。

当日は、あいにく強風と雪のため、室内での催しとなりました。が、参加者の奏でる尺八の追悼曲「江差追分」を聞きながら、テーブルに並べた二百本の竹灯籠に火を灯すと、オレンジ色の光が室内を照らしました。みんなで「ふるさと」を合唱した後、仮設住宅から移転などで会う機会が減った参加者の皆さんが親睦を深めていました。（健康農業 亘理いち



笑顔で卒業@寺子屋亘理



寺子屋閑上卒業式

それぞれ、
新たな
一歩を。

平成26年12月末。「先生、関東の会社に就職が内定しました!今までありがとうございました」と、とても嬉しい報告を受けました。「寺子

屋閑上」第1期生がこの春高校を卒業して社会人となり、また第4期生8名も無事に高校に入

学いたしました。こうしてみなさまのお力添えにより、子ども達は新たな一歩を踏み出すことができました。平成23年の寺子屋開校から、寄り添い共に歩んできた子どもたちが、震災後からそれぞれの想いを背負いながらも一歩一歩確実にそれぞれの道を歩んでいます。

先輩の背中を見て下級生も頑張っています。定期試験で自己ベストの点数を取つたり、これまで苦手だった教科で友だちから「教えて」と言われるようになつたりと、コツコツと努力し、着実に実力と自信をつけています。寺子屋を通して得た力が、これから的人生で活かされ、希望に満ちた充実した人生となることを願っています。

被災地4度目 笑顔あふれるお正月

1月11日@宮城県名取市高館公民館

「よいしょ～よいしょ～」という元気な声とともに餅をつく快音が響き

る「寺子屋交流会」(寺子屋こども新年会)を実施致しました。参加者は、「寺子屋閑上」と「寺子屋亘理」の小学生12名。初回に比べ、参加する子

どもの数は大幅に減少し、少し寂しさもありましたが、この交流会で、

「閑上のお友だちにまた会える!元気にしているかな?」とお互い再会を楽しみにしています。

新年会では餅つきの他、つきたての餅でお雑煮を食べたり、書初めや

盆あげをしました。日本には伝統行



笑顔の杵を振り下ろす

事がたくさんあります。この伝統を受け継いでいくことは、日本の未来を守ることにもつながります。今後も勉強や様々な体験を通して、日本の宝を継承していくことに力を入れていきたいです。(寺子屋亘理・綾田早笑)

子どもたちは今

寺子屋 閑上・亘理



寺子屋の仲間たちと

震災から4年経った現在も子どもたちの学習環境の劣悪さに変化はありません。長期にわたる仮の住まいでの生活の中、先行きが不透明なままの彼らの心には不安が大きくなるしかかり、生活再建に奔走する親からは「子どもが寺子屋に行っている時間が一息つく時間となり、ストレスの軽減になっている」という声が聞かれるほど心労が窺えます。また「仮設住宅を出られていな」と取り残された子どもも寂しさを交えて訴えます。これから、仮設住宅を退去する家庭はどんどん増えていきますが、最後

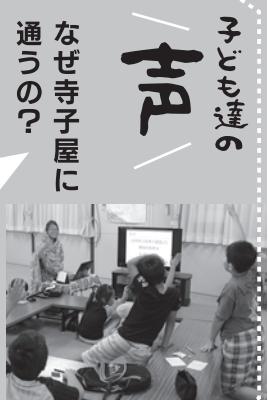
一方、仮設住宅を退去できれば万事順調といいかない現状です。新天地で、また一からコミュニティの築き直しです。寺子屋以外の日は一人で過ごすことが多く、家でゴロゴロしたり、テレビを観たりゲームをしているようです。「友だちと遊べるから楽しい!」寺子屋は子どもたちの大切な居場所なのです。

(寺子屋亘理・綾田早笑)

なぜ寺子屋に通うの?
塾にいけてなくて・楽しいから・家で勉強できないから・わかりやすく教えてもらえるから・勉強するため・友だちがいるから

寺子屋に通うようになつて、自分自身変化したことは何ですか?

学校の合宿にいつのまにか慣れていた・会話が増えた・たくさんの人とコミュニケーションが取れるようになった・自分に自信がもてるようになった「よくできたらが3つ増えた・宿題を忘れないくなつた



「ふるさと」

馬の
大嶋 一馬

大嶋 一馬

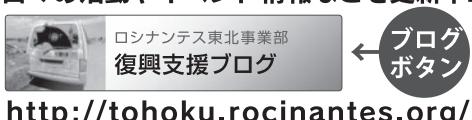
宮城県亘理町で「健康農業」に参加している、荒浜地区で生まれ育った男性Mさん(68歳)。昨年秋の「スーザン・スタディツア」に参加し、日本スーザン交換館「無東西」のオープニングセレモニーで、日本文化の紹介に一役買って出てくれました。Mさんは尺八の名手なのです。

帰国した東北の一一行を駅まで迎えに行きました。Mさんはとても興奮した様子でスーザンでもありました。私はハンドルを握る手が震えていました。

復興には皆さまの継続的なご支援が必要です

道路や建物などの形あるものは着々と復旧が進んでいますが、コミュニティや人の心など、目に見えないものの復興はまだこれから、長き道のりです。皆さま、お力添えのほど、よろしくお願ひ申し上げます。

日々の活動やイベント情報などを更新中!



<http://tohoku.rocinantes.org/>

① 同封の郵便払込票からのお払込み

② ロシナンテスホームページからのお手続き

ロシナンテス 検索
活動を支援する
東北の活動に寄付をする

おつかれさまでした!

元がれき撤去隊長 清水啓右



2011年4月24日に初めて東北ボランティアに来てから、約4年間、ロシナンテスと一緒に生活をさせて頂きました。宮城ではこれから生きていく上で大切なことをたくさん経験し、学ぶことができました。その心を忘れずに今後も生きていきたいと思います。ロシナンテスがあったから、この宮城で4年間生活できました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございますが、このご縁を継続し応援していきたいと思います。

初挑戦！「ロシナンテス」討論！

集え！ロシナンテス学園『1+1=大きな“1”』（「集え！」シリーズ第7弾）

日時／平成26年12月13日（土）

場所／株式会社セントラル・ユーフィー本社ビル（東京・神田）

今日もスーダンの村には、ロシナントンテスの巡回診療車を待つ人々がいます。東北には、仮設住宅を出ても仮設の「寺子屋」に通い続ける子ども達がいます。

その方々のためにも、ロシナンテスの活動に賛同してくれる方、継続して応援してくださる方を増やしていくしかなれません。そう考えたときに「ご支援してくださっている方が、どのような思いで私たちを応援してくださるのか」がはつきりとわからないという悩みがありました。これまでのイベントでは、私たちが活動についてお伝えするもので、一方的なコミュニケーションばかりです。

それならば、「よしつ！皆さんから意見を聞く会をやつてみよう！」と

※スーダン・東北の活動報告
※ワークショップ（意見交換会）

を行いました。

意見交換では想像以上に議論が

白熱し、とても貴重なご意見をたくさんいただきました。いだいたご意見を元に、新たな広報戦略を立て始めました。

今後もこのような意見交換会を設けて、皆さまからの熱いご意見を賜りたく存じます。その際はどうぞお力添えの程、よろしくお願ひ申し上げます！

議論が白熱しました！

気づくとみんな立ち上がってました

国内の活動

川原もスーダンからビデオ参戦



年齢も性別も超えて話し合いました



議論が白熱しました！



川原のかけ声に合わせ会場の全員で「オーッ!!」



会場全体を魅了した素晴らしい演奏



身近なものをを使った応急処置を学びました



先生＆生徒役として盛り上がる議論！

集え！ロシナンテス学園 アンケート結果

「いろいろな思い、信念を持ったゲストの話を聴けた。心に響く言葉がたくさんあった。とても楽しい授業でした。」（女性・社会人）

「今、東北が抱えている問題やコミュニティの大切さを学べた。また、ボランティアの受け手側の問題を初めて知った。」（女性・大学生）

「同じ方向を向いていても、様々な形で表現できることを感じた。身近なところから自分の力を生かせる可能性を探ろうと思う。」（男性・大学生）

「地域で活動することの意味や効果を自分なりに感じ考えるきっかけとなった」（女性・社会人）

「今日は小学生の息子と来ました。頑張っている大人、学生の姿を見て刺激になりました。」（男性・社会人）

「自分の損得よりも、人のため」というのは本当に難しいことだと思うけれど目の前にある自分にできることをやっていくと思う。（女性・大学生）

「いろいろな思い、信念を持ったゲストの話を聴けた。心に響く言葉がたくさんあった。とても楽しい授業でした。」（女性・社会人）

「今、東北が抱えている問題やコミュニティの大切さを学べた。また、ボランティアの受け手側の問題を初めて知った。」（女性・大学生）

「同じ方向を向いていても、様々な形で表現できることを感じた。身近なところから自分の力を生かせる可能性を探ろうと思う。」（男性・大学生）

「地域で活動することの意味や効果を自分なりに感じ考えるきっかけとなった」（女性・社会人）

「今日は小学生の息子と来ました。頑張っている大人、学生の姿を見て刺激になりました。」（男性・社会人）

「自分の損得よりも、人のため」というのは本当に難しいことだと思うけれど目の前にある自分にできることをやっていくと思う。（女性・大学生）

「いろいろな思い、信念を持ったゲストの話を聴けた。心に響く言葉がたくさんあった。とても楽しい授業でした。」（女性・社会人）

「今、東北が抱えている問題やコミュニティの大切さを学べた。また、ボランティアの受け手側の問題を初めて知った。」（女性・大学生）

「同じ方向を向いていても、様々な形で表現できることを感じた。身近なところから自分の力を生かせる可能性を探ろうと思う。」（男性・大学生）

「地域で活動することの意味や効果を自分なりに感じられるきっかけとなりました。」（女性・社会人）

「今日は小学生の息子と来ました。頑張っている大人、学生の姿を見て刺激になりました。」（男性・社会人）

「自分の損得よりも、人のため」というのは本当に難しいことだと思うけれど目の前にある自分にできることをやっていくと思う。（女性・大学生）

ゼインくんなり

ゼネラルアブディーン
عبد الرحمن زين العابدين日本出国の朝、空港にて
海原家の皆さんとスーダン帰国直後の
ゼイン君(左端)

おかげ様で日本の高校から卒業しました。
 3年間本当に早かったです。この3年間の間にあった経験
 はゼインの一生の宝物です。いろいろなことを学んで、
 ロシナンテスとロシナンテスのサポートの皆さんをはじめ
 先生たちやクラスとサッカー部の仲間に本当に感謝しています。
 そのま日本の大に行く為に一生懸命勉強して、皆さん
 のおかげで日本語能力試験と大学の一般入試に合格
 することを出来ました。しかし、いろいろな事情があり、日本の
 大学に行くことができなくなりました。
 スーダンに帰っても日本人の礼儀や優しさをスーダン人に
 伝えて行きます。3年間も会っていない家族と会うのとても
 楽しみにしています。スーダンに帰て、スーダンの大学で4年間
 究張って、また大学院生として日本に戻ります。約束です。
 川原さん、海原さん、ロシナンテスのサポートの皆さんと
 スタッフをはじめ、ホームステイの藤井さん、宮崎さん、
 学校のクラスの担任葛城先生やクラスメートとサッカー
 部の皆さん、三年間楽しかったです。三年間本当にあ
 りがとうございました。

平成24年4月より九州国際大学付属高等学校に留学していたゼイン君が、去る3月、無事に卒業いたしました。留学中は、地元北九州の方々に支えて頂き、感謝申し上げます。日本に来た当初、日本語をほとんど話せなかった彼を温かく迎えてくださった藤井ファミリー、最後の半年をお世話になった宮崎ファミリー、熱心にゼイン君をご指導頂いた葛城先生をはじめとする高校御恩の先生方、そして日本語検定試験に向けお世話になった日本語談話室の皆様、本当にありがとうございました。

卒業式の数日前、学校からの帰りに私と車中で国歌の練習をしていた時です、彼が突然泣き始め、「日本はすばらしい国です、みんなやさしい…必ず戻ってきたい」と言っておりました。現在、彼はスーダンの大学を目指して母国にて勉強中です。そして近い将来日本へ戻り、再度学びたいと希望しておりますので、その時が来るまでどうぞ温かく見守ってあげてください。

日本での父親役として、彼にはたいしたことができませんでしたが、彼とともに過ごした3年間は、本当に有意義なものでした。これも偏に多くの方々のご支援があったからこそと感謝しております。本当にありがとうございました。 (理事/海原六郎)



日本出国の朝、大勢の見送りの方々と ゼイン君送別会にて

ロシナンテス支援者様からのメッセージ



「控えんでええ！」

中本真吾さん
広島県広島市在住

ロシナンテスとの縁は、川原さんの九州大学の後輩で、歯科医の中村さんからの紹介でした。そこで、2010年6月に広島で講演会を企画させていただきました。その講演会当日、川原さんが会場入りされ、「控え室へどうぞ」とお声掛けすると、「控えんでええ！お前らが頑張って集めてくれたんだから、挨拶する！」と言って、来場される方に一人一人に講演前にも関わらず、ロビーに出られ挨拶をされました。もちろん会場に来られた方はビックリ！関わった方と全力でお付き合いする川原さんらしいと感じたところです。お陰様で、合計で3回講演会をさせていただきましたが、毎回400人前後お越しいただいています。私の出来るハチドリの一滴。たくさんの方にロシナンテスの活動を知つていただけるよう頑張ります！



「川原さんの夢」

藤井盟子さん
東京都港区在住

ロシナンテスを知つたきっかけは、『もうひとつのスーダン』という写真集でした。ハサバッラ村の美しい風景や人々の純粋さ、穏やかな暮らしぶりを主に紹介する内容で、『テロ支援国』というレッテルが、一方的な決め付けであるかに気付かされました。同時に、外務省の医務官の地位をなげうつてまで、目の前の命を助けようとする川原さんの「医師魂」に感動を覚えました。

ロシナンテス東北の活動を通じて閑上や亘理に行く事ができ、イベントに参加して大嶋さん、工藤さんをはじめスタッフの皆さんと知り合えた事は、大変嬉しく有難い事でした。私でも、微力ながら復興のお手伝いができるのだと感じられたからです。

今は、老父と二人暮らしの為、中々東北へ行けないのでですが、寄付を通じて、東北の復興とスーダンに病院を建てるという川原さんの夢を応援していきます。



ご意見・ご感想は
 お電話もしくはメールにて
 TEL 093-521-6470
 (平日10:00~18:00)
 info@rocinantes.org

昨年10月より販売しておりました
 「ロシナンテス活動カレンダー2011」
 5、今回もおかげさまで、大変多くの
 方々にご購入いただきました。ご購入
 下さったみなさま、誠にありがとうございました。
 この場を借りて御礼申し
 上げます。カレンダーの収益金は、ロ
 シナンテスの活動資金としてスー
 ダン・東北のために大切に使わせて
 いただきます。今回は例年と異なる仕様で
 制作しましたが、いかがでしたでしょうか？
 2016年版の制作に活かし
 たいと思いますので、ご意見・ご感想
 をぜひお寄せ下さい！



●事例
お菓子のLeaf
リーフ

募金箱を設置して3年ほどになります。今ではお店を利用するお客様にも浸透し「少しでも協力できれば…」とおっしゃって募金箱に入れていただく方も増えてきました。小さな支援ですがこれからも続けていきたいと思います。

北九州市八幡東区昭和3-1-23 TEL 093-654-6767



ロシナンテスの募金箱を置いていただける、お店・病院・会社などなどを募集しています！あなたとあなたの地域やお客様のお力を貸してください！ロシナンテスの募金箱を多くの場所に設置していただき、スーダンや東北の方々への支援の輪が少しでも広がっていくことを願っています。

まずは日本事務局へご連絡ください！



スポーツ事業部
田中三千太郎

あつかれさまでした！

2013年6月に入社し、この1年6ヶ月間、笑いあり、涙ありのロシナンテス人生でしたが、スポーツを通じて子供達の成長に携わることができたのは、支援者の皆様のお陰だと思っています。本当にありがとうございました。



日本事務局
吉川 操

日本事務局スタッフ紹介

皆様はじめまして！「何か社会に役立ち、誇りを持てる仕事がしたい」と漠然と考えていたところ、ご縁があり、1月より働かせていただいています。支援者の皆様と現場の心と心をつなぐ、双方向の橋渡しができますよう頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

カレンダー購入御礼

募金箱の設置にご協力を！

